

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 7 号 〇●〇

平成 24 年 10 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第7号では、小中一貫・連携教育研究グループの一つである「泉新小学校」と「三原台中学校」の取組を紹介します。

【研究主題】 主体的に学び活動する児童・生徒を育成する小中連携教育
～ 授業や交流活動を通して ～

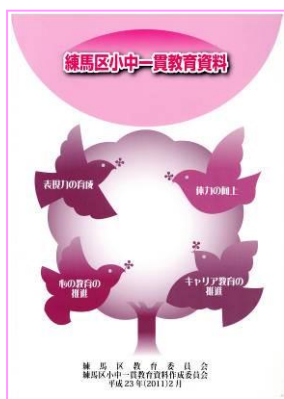
◆研究推進委員会の積極的なリードで教科連携を推進

泉新小と三原台中では、23年度に研究グループの指定を受けるのに先立ち、22年度中に両校の校長先生・副校長先生が3回集まり、研究の進め方を協議しました。研究が始まってからは、教務主任、研究主任の先生方も加わり、節目節目で研究の進め方を協議し、重要事項は文書で確認して小中で共有しています。



研究推進委員会のリーダーシップのもと、連携教科である算数・数学と体育・保健体育において2年間で計14回の研究授業【写真⑤】を計画し、教科連携や児童・生徒の交流を進めています。

◆体育の課題改善カリキュラムで「練馬区小中一貫教育資料」を活用



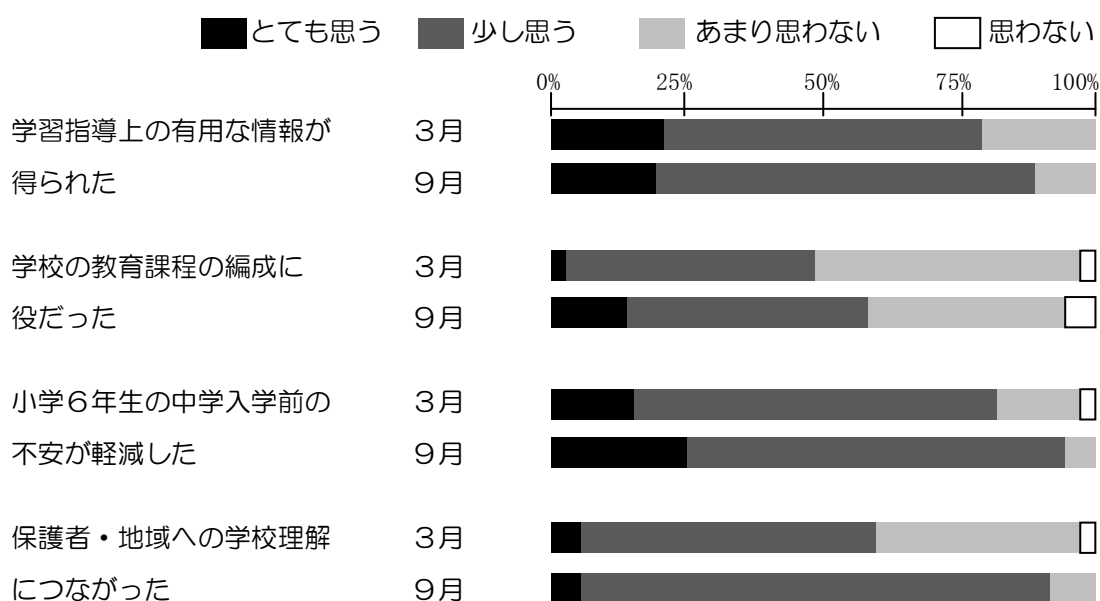
「体育・保健体育部会」では、課題改善カリキュラムの検討にあたって、「練馬区小中一貫教育資料」【写真⑥】を活用しています。平成23年2月に全校配布した「練馬区小中一貫教育資料」では、練馬区において4つの重視する事項の一つとして「体力の向上」を取り上げています。そこに掲載している指導事例を参照して、両校のテーマである「全身持久力と敏捷性の向上」に役立つツールの活用を小中で検討していく予定です。

◆不登校・特別支援教育における小中連携

5つある分科会の一つ「特別支援教育分科会」では、小中両校の特別支援教育コーディネーターと養護の先生を中心に、毎月情報交換を行っています。この地域担当の学校巡回相談員や泉新小の心のふれあい相談員が、三原台中の不登校・特別支援部会に参加するなど、小中学校がお互いの状況を把握し合うことで、支援を必要とする子供への対応がスムーズになったという実感が得られています。

◆小中一貫教育に対する教員意識の変化は

24年3月と9月に、両校の先生方に対して10問の意識調査を行いました。研究を進めるなかで、小中一貫教育に肯定的な考えの先生が少しずつ増えてきているようです。



◆研究グループ以外の小学校との連携

三原台中には、泉新小のほかに、橋戸小と光和小からも子供たちが進学してきます。6月の校区别協議会では、小中一貫教育の取組を両小学校の先生方に紹介し、9月に



は、泉新小と橋戸小の6年生全員が三原台中学校を訪問し、中学の授業を体験したり、中学校生徒会の生徒から学校の説明を受けたりしました【写真⑤】。

3校との距離や進学してくる割合が大きく異なる中、徐々に連携を広げています。